

諸言

先ヅ特ニ高唱シタキハ張鼓峯附近ノ戦闘ニ關スル教訓ハ實ニ適切ニ蒐集セラレアリ各部隊ハ更ニ之ヲ深ク研究シ教育訓練ノ參考トセラレンコトヲ望ム

次ニ砲兵的ニ見タル本事件特異ノ點ヲ述ブレバ

一、敵砲兵ノ人的素質ハ軍備擴張及敗度ノ肅正工事ノ結果皇軍砲兵幹部ニ比スレバ劣等ナルベキハ想像ニ難カラスト雖モ七月中旬頃ニ於テハ敵ハ既ニ實彈ニ依リ長時日訓練セラレタル結果其ノ戦力ハ相當ニ見ルベキモノアリ決テ輕視スベカラズ

二、戰場附近ノ地形ハ「ハルハ」河左岸ハ「スンプルオボ」附近ヲ最高所トシ北方ニ曠ガル臺地ニシテ且臺地端ノ急傾斜（諸所崖ヲ形成ス）ト併行ニ三、三行後方ヨリ幅三、四軒ノ淺キ凹地ヲ南北ニ有スル大波狀地ナリ

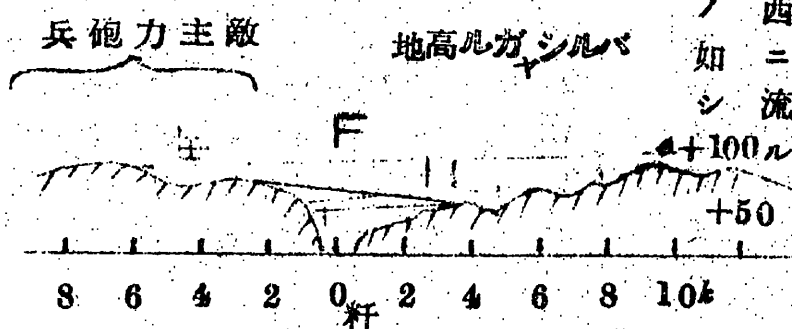
「ハルハ」河右岸ハ「バルシヤガル」高地一帯及「ノロ」高地ニシテ最高所ハ「スンプルオボ」北方敵主力砲兵陣地帶ト略ト同一標高ニ

地形右ノ如クナルヲ以テ被我共ニ砲兵ノ遮蔽十分ナラズ（但シ「ハ

⑦57 南東湖干査ンギリイ

流合方西「ハルハ」河

圖面斷ルヌ運ヲ點



「ハルハ」河

ハ視界

概略ハ七月二十五日頃ノ
概略ノ位置ヲ示ス

シテ一帯ノ砂丘地帯ナリ「ハルハ」高地ト「ノ」高地トノ中
間ニハ「ハルハ」河東西ニ流シ
戦場一部ノ断面圖ノ概要左ノ如シ

ルハ「河谷ノ敵砲兵ハ能ク遮蔽シ發見甚ダ困難ナリキ」臺上ノモノハ相互ニ火光ヲ稟定スルコトヲ待ベシ

我方地雷ノ最箇所ヨリハ前方ノ砂丘ニ妨ゲラレテ「ハルハ」河谷ヲ觀測スルコトヲ待ス其ノ左岸臺地ノ中央ヨリ上岨ノ第二ノ稜線迄遠望シ得ベク第一第二稜線ハ約二二三密位ノ差ヲ以テ重疊シアリ而シテ「ハルハ」河谷ハ同河ヨリ約四軒ノ砂丘ニ立テバ諸所觀測シ得ルモ橋梁ハ同前方ノ臺地端ニ出デザレバ觀測困難ナリ

三、地形ノ關係上相互ニ大射距離ノ射撃ヲ實施セザルベカラザル狀況ニ在リ從ツテ射撃ハ困難ニシテ多クノ彈藥ト時間トヲ必要トス

四、制空權ハ概ネ我が有ニ歸シ一部ノ偵察飛行機ヲ以テ空觀射撃ヲ實施スルコトヲ待タリ

五、砂丘地帯ナル爲砲彈ノ效力ハ著シク減殺セラレ又兵器保存上特ニ注意

ヲ要ス

六、情報偵察ノ活動顯著ニシテ其ノ成果大ナルモノアリ